大砂土中だより
溌剌と（はつらつ）

さいたま市立大砂土中学校
048−684−8004
http://osato-j.saitama-city.ed.jp
No.6　令和6年9月27日号

気づく季節
～秋～

校　長　　倉　林　弥　生

２学期が始まって早くも１カ月が経とうとしています。暦の上では、すっかり秋なのですが、９月の間も気温が高く、残暑が続き、この期間は、「秋はほど遠い」といった感じでした。

そのような中、９月１７日の給食の献立表に「十五夜献立」と書かれていることに目が留まり、「月見団子汁」や「さんまのかば焼き」などの秋の風物をいただいて、改めて「今日は、十五夜。中秋の名月。季節はもう秋なのだ」ということに気づきました。そして、この日の夜に、家の近くの川沿いの道を通りかかると、夜空にはきれいなお月様が光を放っており、まさに「十五夜」を目の当たりにすることで、ほど遠かった秋を身近に感じて一日が終わりました。

ところで、「十五夜」とは何か、皆さんは知っているでしょうか？一般的には、「十五夜」とは旧暦の毎月１５日の夜のことと言われています。また、「十五夜」が「中秋の名月」と言われるのは、旧暦では、７月から９月が秋であり、その真ん中にある８月１５日が、「中秋」と呼ばれ、この日に見る月が１年で最も美しいからだそうです。

日本には「十五夜」に、月に見立てたお団子（月見団子）を供え、お米の収穫に感謝し、次年の豊作を祈るという風習があります。さらに、ススキを供えるのは、秋に収穫できる稲穂に見立てているからだそうです。こうして「十五夜」に始まり、周囲の変化を意識し始めた今、日差しが柔らかくなったこと、日が暮れるのが早くなったこと、風が冷たくなったことなど、秋の気配を少しずつ実感しているところです。加えて秋は、「読書の秋」、「芸術の秋」、「食欲の秋」、「スポーツの秋」などと色々な秋に例えられ、より多くのことに楽しみを見出しながら、様々なことに「気づく季節」です。ぜひ、「実りの秋」を堪能してみてください。

明日からいよいよ新人体育大会が本格的に始まります。１，２年生の皆さんは、この長かった猛暑の中、練習した成果を思う存分、発揮してください。皆さんの健闘を祈ると同時に、大砂土中学校のそれぞれの部が、多くの人たちから「応援されるチーム」になることを願っています。

以下の詩は、詩人の宮澤章二さんの「気づく季節」です。宮澤さんは、さいたま市に縁のある方で、市内の学校の校歌も作詞されました。何かに気づくことで、少し前進できる秋になるとよいですね。

『気づく季節』

渡る風が　すこしずつ涼しくなり　まわりの暑さが　急にどこかに消えて
なんとなく体が引きしまることに　気づく　　秋は　ふと　何かに気づく季節だ

大気がさわやかに澄むためであろうか　こころが雑念なく澄むためであろうか
夏の間は居眠りばかりしていた＜思考＞が　目ざめた如く動き始めることに　気づく

現実の目も　こころの目も　鋭くなり　　草陰に隠れた結実の確かさに　気づく
思わず＜気づく＞ことによって一歩進む　　気づこうとして＜気づく＞ことで二歩進む

秋はさまざまなことに気づく季節だ